

「あいうえおカード」

1 教材の使用目的

- ・絵カードとひらがなのマッチング。
- ・語彙を増やす。

2 教材の使用方法等

提示された絵カードに合った文字を五十音表から探して下の枠にはりつける。自分でカードを取ったりはったりしながら指先を使う訓練もねらっている。



正面からみた様子



実際に使用している様子

「太鼓演奏のスイッチ教材(学校祭の合奏の練習風景)」

1 教材の使用目的

学校祭の合奏をきっかけに作成した。

2 教材の使用法等

太鼓に棒スイッチと玄関のベルを改造した太鼓たたき機をセットすることで、レバーを動かすと音が出るようになっている。この機材を使って練習を繰り返し、パソコンを使って録音をして自分の音を聞くこともできた。



太鼓たたき機をセットします。



棒スイッチを姿勢や腕の高さに合わせてフィッティングしています。



準備完了



太鼓をたたいて楽しんでいます。



*「マジカルトイボックス」の講習会で習いました。

「型はめ盤」

1 教材の使用目的

色と形の弁別を学習するために作成した。

2 教材の使用法等

上段に色の手がかりが、左端の列に形の手がかりがあり、それを見ながら正しい位置にブロックをはめる学習に取り組んでいる。



盤と各ピースをバラバラにする。



色と形の手がかりを見て盤にはめていく。



全部はめることができたなら完成

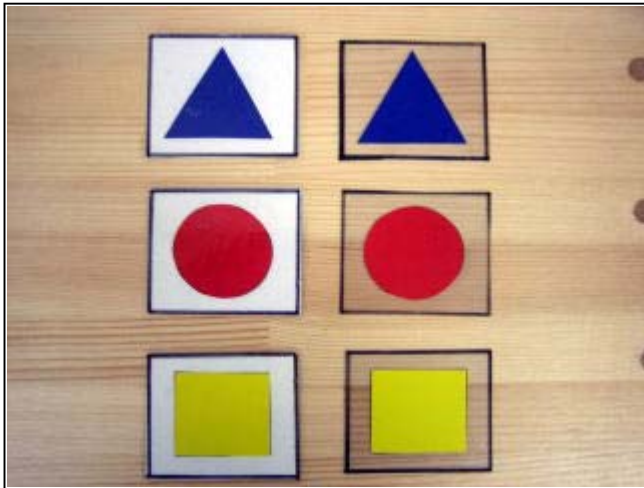
「かたちあわせ」

1 教材の使用目的

形のマッチングの勉強をするために作成した。

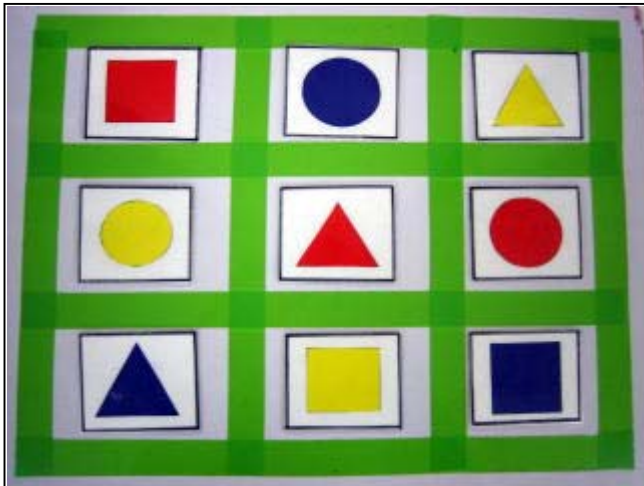
2 教材の使用法等

マッチングカードの片方を透明にすることで、重ね合わせた時に正解か不正解かを自分で気づくことができるようにした。



カードの片方が透明で、後ろが見えるようになっている。

間違えたカードを置くと、後ろの図形が見えて、間違いに気づくことができる。



正しい位置に重ねるとこのようになる。



現在では、平仮名や数字のマッチングにも応用している。

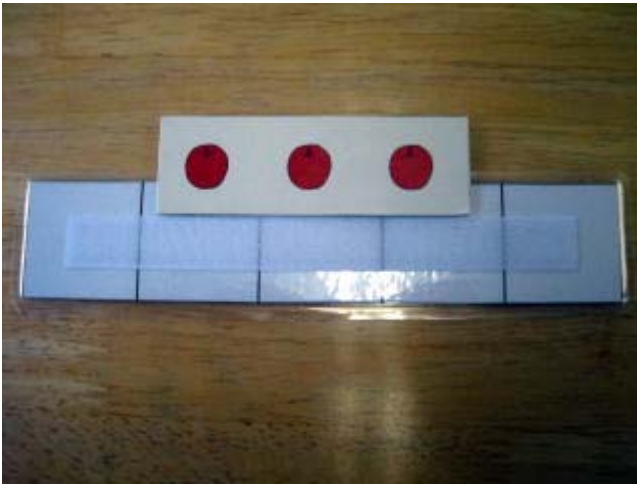
「かぞえてみようカード」

1 教材の使用目的

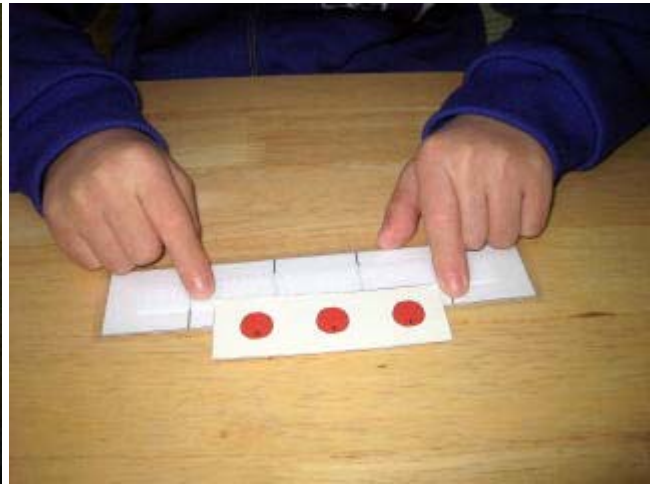
数詞、数字と具体物の対応ができるようになることを目指して制作した。

2 教材の使用法等

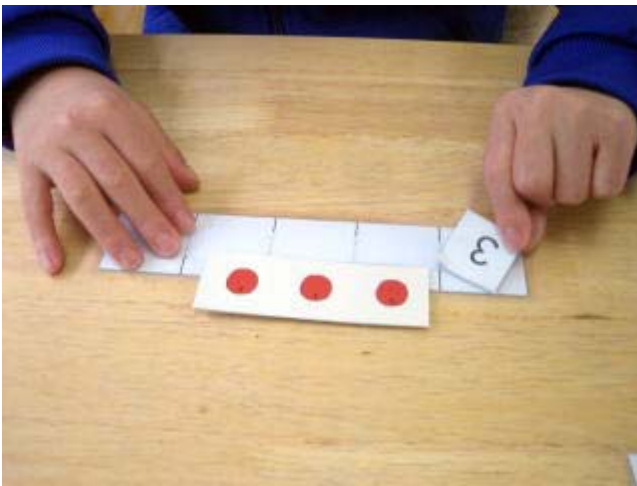
マジックテープをはった台紙と数字のカード、絵カードを使用する。具体物の数を数えて、数字カードを選んではり、さらに具体物との一対一対応をして定着を図る。



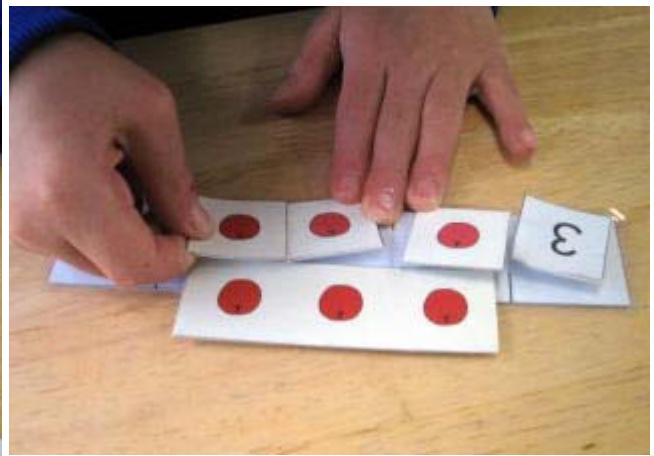
「りんご」が3個描いてある絵カードを台紙にはっておく。



「りんご」が何個あるか数える。



「3」の数字を選んで台紙にはる。



1枚に1個描いてある「りんご」の絵カードを数えて、台紙に3枚はる。



絵カードの例



数字のカード

「位取り盤」

1 教材の使用目的

- ・金種と位取りの関係を学習する。
- ・金種同士の等価関係を学習する。

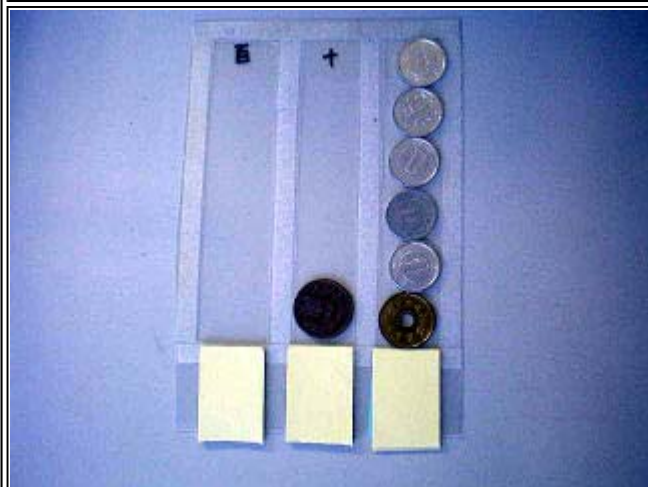
2 教材の使用法等

指定された金額を準備する学習と違った金種同士の等価関係を学習するために使うことができる。生徒自身が実物の硬貨を使って学習することで、実践的に学ぶことができる。

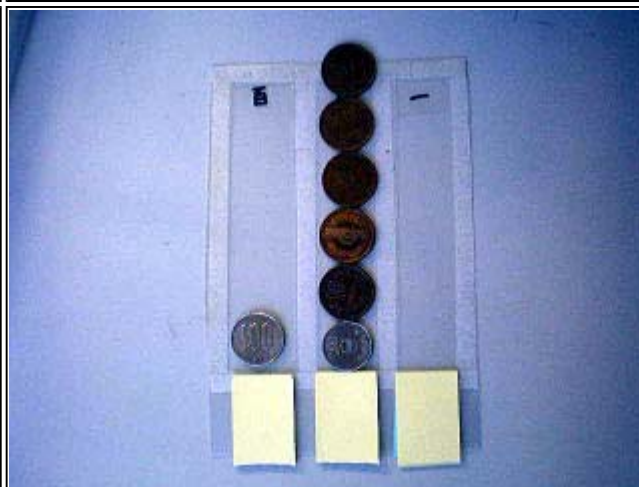


位取り盤と硬貨を用意する。

付箋に記入された枚数の硬貨を載せる学習の場合



1円玉5枚と5円1枚で10円と同じことを学習する場合



10円玉5枚と50円玉1枚で100円と同じことを学習する場合

「マウスの代替スイッチ」

1 教材の使用目的

マウスのクリックが上手に行えない生徒が、一人でパソコンを使用することを目的に作成した。

2 教材の使用法等

マウスのクリックがうまくできない、もしくは操作が気になってしまう、左ボタンだけ押すのが困難などの児童、生徒でもストレスなくパソコン教材が使えるツールである。マウスの左クリックが別のスイッチでできるように改造した。「マジカルトイボックス」のイベントで教えてもらい、制作した。写真の生徒は、マウスを右手で操作し、左手で左クリックにつないだスイッチを押してパソコンを操作している。



スイッチの拡大図。普通のマウスを改造して作成する。

左クリックだけ独立したボタンになっている。



読み物ソフトを一人で操作できるようになった。

「差し込みボックス」

1 教材の使用目的

- ・筆記具の正しい持ち方を促すために作成
- ・併せて、色の弁別学習

2 教材の使用法等

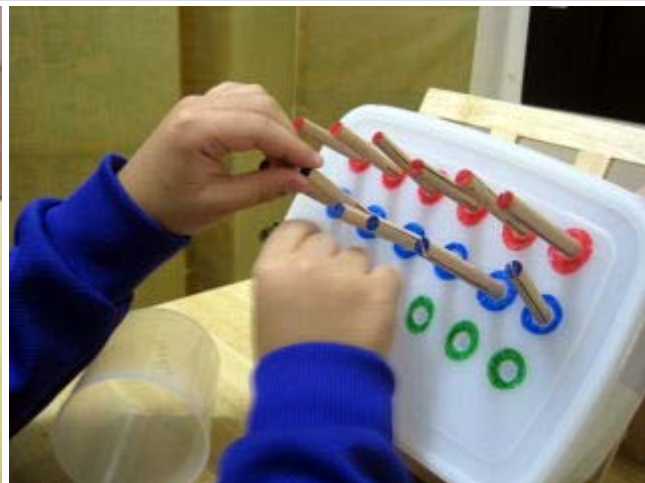
タッパーに鉛筆サイズの穴をあけ、木の棒を差し込んでいくという活動を通して、色の弁別や鉛筆の持ち方の練習に取り組んだ。

鉛筆の正しい持ち方を促すために、親指と人差し指を対向させて物をつまんだり、握ったりすることに留意して取り組ませている。書字学習の前に行うことで、正しい鉛筆の持ち方を自然と意識できるよう、この活動を取り入れている。

傾斜をつけたり、穴の大きさを少し狭くしたりすることで、より指先に力を入れて物を差し込もうとする姿がみられた。



正面から見た差し込みボックス



木の棒をつまんで、色を合わせて差し込みます

「スイスイしつけくん」

1 教材の使用目的

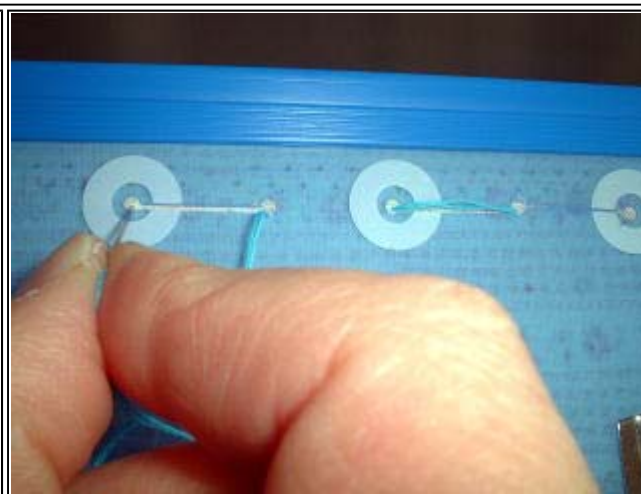
一人でしつけ縫いができることを目的に作成した。

2 教材の使用手法等

布を2枚のプラ板に挟み、針を刺すところに2mm程度の穴を開け、糸の通り道に溝を切ることで、自分で布をもって縫うことが難しい生徒でも、一人でしつけ縫いができるようにした。



布を挟む2枚のプラ板は透明なものを使用し、中を確認できるようにしている。



穴の周りにシールを張って注目しやすいようにしている。



白い丸の穴に針を刺すことで、一人でも縫うことができる。



穴から出てきた針を引くことでしつけ縫いを行っている。

「すのこ製作補助具」

1 教材の使用目的

一人ですのこ板を作ることができるように、作成した。

2 教材の使用手法等

下にある赤いボードに短い下板を、黄色のボードに長い上板をセットすることで、簡単に均一の製品を量産することができる。



補助具の間から見える下板にボンドを塗る。



上板をセットしたら釘を打って組み立てる。



仕上げにニスを塗って完成

「書見台」

1 教材の使用目的

自分の力で頭を持ち上げたり、頭を上げた姿勢を保持することを目的に作成した。

2 教材の使用法等

肢体不自由の児童が腹臥位の姿勢で、頭を持ち上げたり保持したりできるように、前方上の方向に書見台を設置して取り組んだ。

書見台にマジックテープをつけたことで、おもちゃをつるして遊ぶことができるようになり、活動の中で頭を持ち上げる様子がみられるようになった。



正面から見た書見台



横から見た書見台



実際に使用している様子